

## 巻頭言

## これからの時代にふさわしい「学び」のあり方

数学部会長 齋藤 茂

今年6月に開催された数学部会総会において、弓削直樹先生の後任として部会長を務めることになりました。会員の資質向上と親睦を図り、県高校数学教育の振興に努めてまいりますので、皆様方のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

本日、数学部会誌『 $\alpha - \omega$ 』第53号を発刊し、先生方にお配りしました。これは本部会の活動や県内の先生方の研究成果等を冊子にまとめたものです。日頃、熱心に研究活動をおこなわれる先生方から貴重な研究成果を寄稿していただき、厚く御礼申し上げます。本部会誌は、昭和39年の創刊以来、長年にわたり数学教育全般にわたる啓発活動に寄与しています。今後も、先生方の研究成果や授業改善に役立つ情報などを本部会誌並びに本部会ホームページ(<http://math.sakura.ne.jp/>)にて、広く数学教育関係者に発信してまいります。

さて、本部会では、6月に総会・春季研究大会、11月に秋季研究大会を県内各学校を会場に開催し、研究大会では、先生方による実践発表や本部会研究委員会による大学入試・教育課程等の研究発表、大学教授等による講演のほか、会場校の公開授業が行われます。また、7月に高等学校教育課程研究協議会（県教委との共催事業）、8月に見学研修会を実施しています。春・秋の研究大会は、県内の数学の先生方が大勢集まり、研修・交流の場として数少ない貴重な機会ですので、これからもぜひ多くの先生方のご参加をお願いいたします。

ところで、我が国では、グローバル化・多極化、少子高齢化など、急激な社会の変化に伴って、変化の激しい社会に対応できる人材の育成が急務であり、そのために、高校教育・大学教育・大学入試の三者の一体的な改革が進められているところです。改訂された学習指導要領に基づく新教育課程が実施されて今年で3年。知識・技能といった「従来型の学力」の定着に加えて、思考力・判断力・表現力といった「21世紀型の学力」が今求められています。

文部科学省では、早くも次期学習指導要領の検討が始まり、授業改善を含めた「高大接続」に向け、高大接続改革実行プランが策定されました。特に、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」といった2つの新テストの導入については、我々も注視していく必要があります。さらに、こうした大学入試改革は、高校における「学び」のあり方でも大きく変えてしまう可能性があります。とりわけ、次期学習指導要領の焦点の1つである、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習、『アクティブ・ラーニング』をどのように高校の授業に根付かせるか、現場の先生方の研究や実践に期待するところです。

本部会では、今後も日々の授業改善の一助となるような有益な情報を発信してまいりますので、ご意見等をお寄せいただければ幸いです。